

京交山岳部報

№ 306

'78 4月号

〔第1170回例会〕

残雪の奥美濃

笹ヶ峰

(T)

日 時 4月23日(日) 5時 九条車庫集合
コ ー ス 京都東一彦根一木ノ本一栃ノ木峠一広野一大河内…笹ヶ峰
担 当 者 九条 広瀬 烈(TEL 358) 甲込みメ切 3月30日(木)
備 考 わかん必携 1/20万図「岐阜」 1/2.5万図「広野」

〔第1171回例会〕

比良

堂満岳

(R)

日 時 4月2日(日) 7.00 京都駅2番ホーム集合
コ ー ス 京都一比良一山の家…東レ新道…堂満岳…下山ルートは参加者で決定
担 当 者 本局 三橋 勉(TEL 245) 甲込みメ切 7日(金)

〔第1172回例会〕

京都府下30山 その4

磯砂山

(R)

日 時 4月15日(土)~16日(日) 15日 15.00 西京極体育館前集合
コ ー ス 京都一宮津一(18.00~19.00 レストランにて食事)一20.00 民宿
民宿一上常吉一車…車峠…△661 磯砂山…13.30 出発一16.30 京都
担 当 者 本局 大槻雅弘(TEL 269) 1/2.5万図「四辻」
備 考 週末をのんびり家族そろって山へ行こうと計画したものです。海の見え
る1等三角点のよい山です。多数ご参加ください。なおマイカー利用、
民宿泊の予定ですから、参加者は必ず4月10日(月)までに連絡して
下さい。

* おわびとお知らせ 京都府下30山その3 大江山は3月12日予定していましたが都合により5月24日に延期しました。参加ご希望の方々に大変ご迷惑をおかけしたことをおわび致します。

。 今 月 の 集 会 。

- 日 時 4月10日(月) 午後7時から 下鴨寮
- 議 題 1. 例会(嵐1167~1171) 部員動静 報告
2. 5月例会(雨紀の山、他) 集会(西賀茂)について
3. 京都府下30山登山を成功させるために
4. 飯砂山打合せ その他
- 当番 錦林支部—



人 間 へ の 災 い

宮 後 正 樹

州市にある淡路島モンキーセンターの野生ニホンザルに奇形ザルが多発しているという。ザルの奇形の自然発生率は普通0.4%程度とされているのに、同センターの記録によると昭和44年以來、子ザル128匹のうち46匹、実に40%近くが奇形であったということである。手足の変形がひどく、重度の奇形ザルは憶病で警戒心も強く自力で木に登れずはい歩いているものや、手足で物がつかめず口で食べ物を拾っている姿が新聞の写真にも載っていた。

この奇形の原因は、サルたちが群内贈であるところからともと群れの中に存在していた遺伝子によるものか、あるいはその他の原因によるものか、科学的な結論はまだ何も出ていないが、奇形ザルの多発は、この淡路島だけに限らず大分の高崎山や、岡山県の臥牛山、長崎県地獄谷など、人間が飼つけた群れの中で発生しているというからには、与えられたエサに残留している農薬や除草剤などの影響ということも考えられ、それはいつの日か人間への災いとしてふりかかって来ないとも限らないのである。

時あたかも、北陸スモン訴訟においてクスリの製造販売にあたり、国や製薬会社に対して安全性の確認義務と責任をきびしく明示する判決をした金沢地裁の井上裁判長の「検証のとき寝たきりの患者をみて、ものすごくひどいなと思った。原告側は悲慘をみることたというが、それはかりでなく、なぜそれが起きたのか、どうすべきかを考えることがむずかしい」という言葉に考えさせられた。人間への災いといえは、奈良県では平和のシンボルとしてハトの愛好家が増えたがハトブームが冷めるとともにベットのハトは飼い主から見放され野生化して繁殖し、今度は農作物、大豆などの穀物類を食い荒し大変な被害が出ており、遂に大量射殺作戦を展開することになったという。さらに埼玉ではベットのライオンにえさの豚肉をやるうとオリに入った飼い主がかみ殺されるという

惨事があった。この飼主はかつて外国でもライオンなど猛獣の一はいるオリに入ったことがあるほどの猛獣好きというが、動物リース業という商売をやっており危険な猛獣を飼っていたのである。また近所の人の話しによると最初はネコぐらいの赤ちゃんだったが最近は大きくなって時折かみつかれることもあり少々もてあましきみで、近く剝製にするつもりだといっていたという。

動物の習性や野生性の欠陥などを十分に良く知った上で飼育すべきものだが、そもそもライオンなどの猛獣は素人が飼育すること自体ムリなのである。

人間への災い、それは人間自身のエゴがもたらしたものではなからうか。そこに真の愛情というものもが通っていたかどうかということである。われわれ自然に接する者としても反省させられるところである。

岩茸山上のひととき

綜 峰 生

機会を得て信州岩茸山へスキーに行ったのは2月中旬である。13日朝、バスで京都を出発して晩の8時に宿舎ロシュに着き、14日から17日の夕刻まで丸4日間雪の上の生活がはじまった。ちょうどその頃は武田喜久郎君らが切久保に宿泊している頃と聞いていたので着いてすぐ電話をしたら既に就寝していた。翌朝再び連絡したら声を聞くことができたもののその日夕方には帰途につくということで顔を見ることなく終った。グレンデでは京交青婦部の緑色のゼッケンをつけた青年に会ったので声をかけてみたが若い人で話が通じなかった。その晩落倉の塩島秀実君に電話をかけたら是非家に来いというのだが、こちらは団体でしぼられている身でこれも会えなかった。考えてみれば彼とは45年前の夏後立山連峰を白馬岳から針木岳へ縦走し大町へ抜けた時以来ご無沙汰したままである。

15日曇り空の中を、16日晴天ながら標高2500m以上は雲におおわれた絶好のスキー日和に、そして17日は満天雲なく後立山連峰はくっきり青空の中に白銀にかがやいた快晴にめぐまれて、岩茸山に登った。登ったといってもリフトで登ったのだから運んでもらったにすぎないが、頂上からの眺めのすばらしさは登った手段などに割られるようなものではなかった。もっとも昔は岩茸山などという山があることさえも無視されるほどの山で、白馬岳に登るときに気をつけて見ればこれかという程度でしかなかったが、スキーのおかげで見直されて今では13本のリフト（ほかに荷物運搬用が1本）に守られるようにして全山スキー場化していると云えるほどである。以前にはどんな山だったのかと思って大日本帝國陸地測量部大正元年測図、大正4年4月25日印刷、同4月3(1)日発行定価13銭の5万分の1地形図を引張り出して見ると、細野から北股入・猿倉・白馬尻を経て大雪溪に遡る道の右手にあって標高は1289.6mながら高峰の続く北アルプスの山麓では山の仲間にも入れてもらえず、ひっそりとたたずんでいたとしか云いようのない気の毒な存在でしか

なかった。それが脚光をあびて天下のスキー場として全国から人を集めているのかと思うと今昔の感にたえない。

その岩茸山の山頂でサンサンと降りそそぐ冬の太陽をうけて、とある人に会った。彼は私に年令を聞く。彼も年輩であった。聞けばいま60才で、定年で勤務先をやめて暇だから娘をつれてスキーに来たという。その人は30才でスキーを始めたそうだから既に30年のキャリアを持っているわけである。

ヒュッテで昼食をとりスキーをつけようとしたら、側の若い青年がそれはどうしてつけるのかと聞いた。これはフィットフェルト縮具（ノールウエー式）と云って大正末期から昭和初期にかけて使われたもので、その後カンダハーから現在の固定式のものに変化して来たのだと説明すると、その頃からスキーをやっているのかとけげんな顔をして私をみていた。付け加えて、当時はリリエンフェルト縮具（オーストリー式）という金属製のものまであったと説明したが、こんなことは柳に風と吹き流して滑って行ったことだろう。因に私の今使用している縮具は通しバックンでないから正確にはアルピナ・ピンディングという方が正しいかと思う。

こうして雪解散步を楽しんでいる間に、すぐ目と鼻の先の五竜岳では、12日に滋賀県の男女4人組が転落死あるいは凍死など遭難して大騒ぎしていたことが、帰宅後新聞をみて判った。終は異なるものか。山科駅前で見知り京阪バスの誘導員がふと私に、五竜岳で遭難死した女性の1人はその人の姓にあたり結婚もせず銀行に勤めて山登りを楽しんでいたが、馬鹿なことをしたものだと言ってくれた。身近かの人だけに特に気の毒だと惜しまれたが、今年も山の遭難はなくなかったことが悲しく思われてならない。凶谷竜馬さんがいう。「山で死んではならない。」と、

(53.2.20)

雪の愛宕縦走記

三 橋 悠

津田先輩の案内で、笠トンネルの向うの国鉄バス愛宕道からウジウジ谷を行くいわゆる裏参道コースを辿ることにする。

前日からの雪のため周山街道は高雄付近から雪が積って白一色の冬景色で北山杉がいかにも絵になる光景である。8時20分バスを降り登山準備の後出発する。30cmあまりの新雪であったが我々2番バスでやってきたにもかゝらず全然、人の踏跡がないので嬉しくなった。雪が朝日に反射して宝石を散りばめたようにキラキラと光って美しい道をキュッ、キュッと心地よい音をさせながら誰にも踏まれていない処女雪をふんで子供のようにハジャキたくなる気持ちを押えて元気よく歩き

だす。田尻へ行く道との別れまで雪のない時であれば30分もかゝらないという津田さんの言葉であったが今日は新雪を踏んでラッセルするため汗ばむ程の状態でも30分はかかった。やがて森林帯に入ると雪も少なく歩きやすくなってきて少しペースも早くなってきた。夏道であれば木馬道もらくらく渡れるのであるが、雪をかぶった橋は危なくて渡れない。やむをえず下へ降りてじかに渡ることにする。だんだん暑くなってくると着ている上衣やセータをぬぐので小さなリックは満杯である。山仕事用の小屋で一服する。

奥へ進むにつれてだんだん道が怪しくなり谷歩きをしなくてはならなくなってきた。いわゆるこの谷の水が切れる所まで進まなければ峠に辿り着かないのである。途中の別れ道がいくつもあったが迷わずに歩いて来られたのも同行の津田さんの案内のお蔭である。

やがて開けた地点にてきて谷の水も少なくなる所までくると、間もなくウジウジ峠であると云われヤレヤレと思った。ところが、まだ愛宕山の登り口にはとりついていないと云われガッカリである。それでもここまで来ると谷山谷からやってきたらしい踏跡があった。今まで歩いてきた道はこちらがラッセルをしなければならなかったがもうこれからはラッセルをしなくてもよいと思うと急に元気が出てくるので現金なものである。

やがてダルマ峠へ行く道が高雄の谷山谷から登ってくる道と合流する地点までくると、やっとつか松坂の山口さん一行が来られた時、同行して竜ヶ岳に登った途中のコースであることを思い出した。現金なもので一度通ったことのある道であると少々登りも苦にならずまたたく間にダルマ峠に到着した。左のピークを越えると首無し地藏へ行けると聞かされたが、少々疲れてきていたので巻き道に行く事にする。少し下るとT字路になっていて竜ヶ岳方面の道と別れて左へ進んで丁度ピークの南側を巻くように進む。今まで歩いてきた道と違って踏跡がある道はやはり楽である。ラッセルをしなくてもよいからペースが全然違う。

首無し地藏までくると、消滝方面から来る乗ノ木谷と、高雄神護寺道と、サカサマ峠へゆく道と、愛宕山へ行く道と、扱々がやってきた道との変則交差点の様な中継地点であった。

少し広い木影のいかにも山にきて一服できそうなよい場所であるこの首無し地藏を出発して、いよいよ愛宕山の登りに取付くわけである。

このあたりまでくると向うからやってくる人によく出合うようになり「今日は」と挨拶を交すとヤット愛宕山にやってきた実感が湧いてきた。

朝あれだけ好天であったのに何時の間にか雲が現われて絶好の展望台であるべきこの尾根道も京都市内はおろか近くの山々も見えなくて残念である。

中学生らしい一行と出合った時、その中の一人のサブザックのひもが切れていたのので、親切な津田さんが、ひもを出して修理をしてあげている。前に自分もリックのひもが切れて難儀した事があるので、ひもはいつも持ってきているとの事であった。さすが先輩である。気をよくした中学生が一人一人「ありがとう」とそれぞれ異口同音にお礼をいわれると何か自分まで良い事をしたような嬉しい気持ちになった。山へきて景色が見られなくてもみず知らずの人達からこんなに喜んでもらえる出来事を経験した事は非常によかった。やがて神社まで来るとこんな雪の日にもかかわらずあ

いかわらず大勢の人達が登ってきておられる。午後1時半気温-3度であった。それにも嬉しいことには津出さんの知り合いの息子さん達一行が暖かいラーメンを作って待っていてくださった。寒い日であったので暖かい食物は最高のごちそうである。早速冷たい弁当と共にいただく。

息子さん達と別れてゆっくり一ぶくしてから下山することにする。津出さんは4本爪のアイゼンをつけられたので今度はペースが早い。またたく間に先程別れた息子さん達のパーティに追い着いた。「お先に」といってどンドン下っていく。思えば昨年の夏千日参りの日に4時間余りかゝって登ったこの同じ表参道を何と50分位で降りてしまった。

下は雪から雨に変わっていたのでバスを待たずにタクシーで嵐山駅まで送ってもらった。本当に今回の山行は津出先輩に大変お世話様になりありがとうございました。

コースタイム 2月19日

岩屋道 8.20 ~ 8.30 … 出尻別れ 9.10 ~ 9.15 … ウジウジ峠 12.05 ~ 12.10 … ダルマ峠 12.25

… 首無地蔵 12.35 ~ 12.40 … 神社 13.30 ~ 14.10 … 清滝 15.00

第1166回例会

雪の棧敷岳と城丹国境尾根縦走記

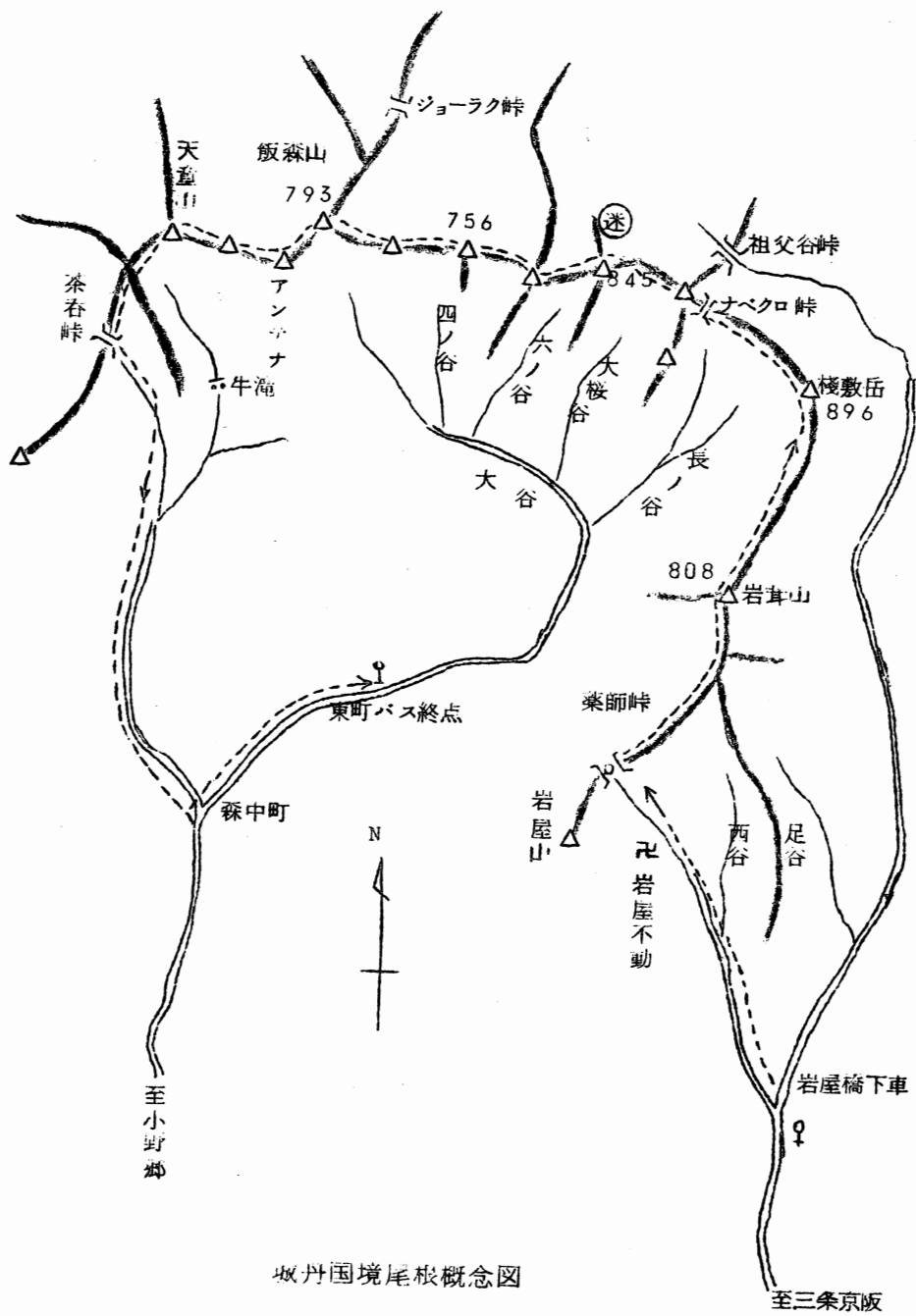
三 橋 勉

3月5日、北大路新町6時半ごろ雲ヶ畑ゆきのバスに乗車(このバスは新聞輸送のため毎日出ること) 7時岩屋橋到着。山屋は我々の他にアベック1組と若い単独行の3パーティのみである。登山準備の後7時5分、予定のコースの岩屋の不動さんに向けて出発する。やがて不動さんの右手の山道へ登る。乗脚峠へ行く途中で、ロングスパッツをつけている間に岩者が追いぬいて行った。冬でも谷歩きをせんならんのか?と思ひながらしばらく進むと屋根と柱だけ残った小屋の中にお地蔵さんがある乗脚峠に到着した。こゝは十字路になっていて我々は右の尾根道へ進むことにする。昨日降った雨で残雪が凍っていてすべって歩きにくい。用心しながら歩き出すと、北山特有の別のわかれ道がよくあり迷いそうな所が2・3ヶ所あったがテープが巻いてあり助かった。あまり急な登り道がなく徐々に登っているゆるやかな登りの尾根道なので汗をかくまでには至らなかった。(汗をかくとこの前の山行で腰が寒くて困ったので薄着をした所為もあるが、)

1月に行った馬谷山のような北斜面をトラバースしながら進むとかなりの雪があったので、スリップしないように注意しながら進んだ。

向うにボリウムのある山がみえてきたが、比叡山の形によく似た山であるので、武出君に地図と磁石で確かめてもらうとまさしく比叡山であった。一息入れることにして津出さんのちくわをごちそうになる。ウマイ! 山に米てこの瞬間が一番幸せなひとときである。

元気が出てきたので足とりも軽く出発する。やがて伐採された見逃しのよい広い地点に出た。向うに大きな反射板があり送電線の鉄塔がみえた。大きな木が3本ありこの木の一本に旗をつけてみ



城丹国境尾根概念図

たら京都から見えるだろうか？ いやあの反射板が見えないくらいだから無理であろう。しかしあの送電線の鉄塔は確かに交遊局から見える鉄塔に間違いないと話しながら歩いている間にだんだんその鉄塔が近くなってきた。夏であればこの付近は笹ヤブで藪コギを必要としない所であるが雪が押えていてくれるのでどこでも好きなコースを登れるが、しかし所によってはヒザを越える位置にもぐる所もあった。

送電線の鉄塔までくると巡視路のような道が祖父谷の方へ続いていた。見透しのよい見附台であったが風がきつくて寒くてじっとしてられないので前方の一處下って又登りになっている機数岳の頂上めざして走るように降りていった。登りになるとだんだん馬力がなくなってきたが「なにくそ」と自分自身にいゝきかせて頑張った。

頂上の二等三角点に到着である。早速雪に埋まった三角点を武田君と掘り出す作業にかかった。始めは簡単に考えていたがなかなか目的の三角点が見つからない。見当違いの所を掘っているのかなかなか出てこない。それに頂上ということで雪が踏みかためたので(スコップを持っていかなかった為)堅い氷のような雪で思うように掘れない。半分あきらめかゝっていた時、武田君がやっとみつめてくれた。約15分位はかゝったであろう。汗ばむくらいのアルバイトであった。ふるえながらにぎりめしを食べていた津出さんを林の影から呼んできて万才三唱する。お正月料理のカズの子をごちそうになりながらまずはカンバイである。

津出さんがひと昔前に登った時には送電線もなかったし、こんな寒々とした坊主山ではなく木が生い茂っていたという事である。

お陰様で見透しがよくなり比良や北部の山々がよくみえた。反対の方向には地蔵や電ヶ岳に続く雙岩山がみえた。これからめざす飯森山や天童山は前の山が邪魔をしてみえなかった。まだこれから先が長いので早々に出発することにする。

細尾根なので忠実にたどらなければ追に迷うと聞かされていたが雪の踏跡と適当なテープの指導標でどんどん降りて行き、鞍部を少し右へふりぎみに登ると送電線の鉄塔の下へ出た。前方にめざす飯森山のパラボラアンテナが見えた。やがてナベクロ峠に到着し、右へ下ると祖父谷峠で、左へ行くと森林帯の中を大森の方へ降りてしまうのでまっすぐに尾根を進むことにする。しばらく行くと奥電の「火の用心」の赤い標識があり森林帯の中の大森の方へ降りているので、これはオカシイゾと思い無視して森林帯の切れ目をなおもまっすぐ進むとやがて伐採された視界の明るい開けた所に出た。前方に小高いピークがありそこを巻くように踏跡があったので武田君が様子を見てくるとまっすぐ進んで行った。後に残った私と津出さんがとにかく山の上に登って向う側をみれば様子が見えるであろうと膝の上までもぐる歩きにくい雪の中を中腹ぐらい登ってから津出さんに「上へあがってみてきてんか」といわれてなおも登りきると赤いテープがあったが踏跡の靴をみると左向きの武田君の方へ降りているので結局武田君が進んだ方が正しかったということがわかった。地図をみるとこのピークは850m峰であったが、縦走コースは先程の「火の用心」の標識からこのピークの東面を巻くように南麓へ出て結局逆まわりをしているわけである。バスを降りて別のルートを取ったアベックの靴跡らしい。ここから小さな地凶のないピークを登り降りして飯森山へ続いている。

少し迷ったが先行していたアベックに追いついた所で昼食にすることにする。

青い空、満腹感。少し昼寝でもしたい位暖たかなので上衣を着なくても大丈夫。寒かった機敷の頂上とえらい違いだ。近くなった飯森山のバラボラアンテナめさしてお腹もふくれたので元気よく出発する。切り開きの見透しのよい道なので鼻歌が出る程、ゴキゲンになってくたいていく。あと一つのピークを越えるとバラボラアンテナの山へゆくという伐採された広い場所に出てきたところでトラバースした方が早く行けると思ったが、やはり忠実にコースを辿ろうということになりやゝ急な登りを10分程登りつめると雑木林の中に何と飯森山と書いた案内板があった。向い側にあるアンテナのある山が飯森山だとばかり思っていたがコースどおりきてよかった事になる。昨年登った桑谷山によく似た頂上で展望はあまりきかなかった。下りは急坂でもったいない感じである。鞍部へ降りると又アンテナの山への登りである。ところがこちらの山に登ると坊主山なので展望が非常によい。朝から歩いてきた機敷の送電線の鉄塔や反射板と三本の木、それからいくつも越えてきたピークが手に取るように見渡せた。しかしこのアンテナのある山の為に大森からは飯森山が見えないことが後で降りてからわかった。この飯森山は反対側の山国からはよく見えることであろう。アンテナのある頂上付近は、金網がしてあり抜々が進むコースはえんりょして横手を巻くように進まなくてはならなかった。少し下って天童山へは広い尾根道をゆっくりした登りで続いており、飯森山よりやゝ低いせいもあってらくに到着できた。

これより下りオンリーで茶吞峠に出て帰れると思ったがなかなかどうしてそうはさせてくれないものだ。一息降りたところで例によって又小さなピークがあり登りつめると尾根づたいに下の大森の町がみえてきた。かなり急な坂を中段あたりまで下ったところに広い林道のような切開いた道がありそこを下ると茶吞峠の約50m程下の道に出たので少し戻って茶吞峠の地蔵さんをおがみに行くかと先程のアベックが一ふくしていたのでじゃまをしては悪いと早々に引揚げた。

大森に4時ごろ降りてきてバスの発車まで1時間以上あるので仕方なしと1駅歩いてバスの終点へ行き、近くの機脇へよったが日曜日であったので休みでガッカリした。近くの農家のオヤジさんと世間話をして時間をつぶしバスに乗車して帰った。

同行者 津田 実、 武田喜久郎

3月5日 くもり

コース・タイム 雲ヶ畑岩屋橋 7.05…西谷出合 7.20…岩屋不動(薬師峠への導標) 7.30…二又(右折導標多し) 7.40 指導標に機敷ヶ岳へ1時間50分とある。しばらくでスバツを付ける。7.45…薬師峠 8.05…コル(西谷からの道) 8.30…(足谷からの道か?) 8.50 反射板 9.25…送電柱 9.45(祖父谷かうの道)…機敷ヶ岳 9.50…(三角点) 出発 10.25…コル 10.40…ナベク峠 10.52…切り開きのピーク 12.05…(食事にする) 出発 12.50…飯森山 13.25 ~ 13.30…バラボラのピーク(障子岩) 13.50…天童山 14.15…茶吞峠 15.00 ~ 15.25…大森西町 15.55…大森バス車庫前 16.05

(コースタイム 武田記)

愛宕・牛松・大文字山

畑 照 人

2月12日 愛宕山

円町から京都バスに乗る。休日なので山屋で満員だろうと思っていたのにタッタ3人である。一寸拍子抜けである。然し滑滝へ着いたら居る居る。矢張り休日である。今日は大変調子が良い。若い大勢にハッスルしたのか、自分ではそう思っていないのだが1時間40分で神社到着。気温-1°。こゝ2・3日は暖かい日が続いた為、道は凍結が大分緩くなっている。下りは雪が降って来たので同一コースをとり帰宅した。

2月17日 晴 牛松山

八木町へ行く先輩の車に便乗して愛宕さん行きを変更して牛松山へ登る。天気は上々で風も無く、至極好条件の山行きとなる。箱柱の道をサクサクと音を立てて歩くのも気分が良い。道には紙屑も無い。自然の道だけであるのもよろしい。金比羅神社には落書ノートが置いてあって登山者は是非共、一筆書いてほしいとあったので私も書込む。流石こゝまで上ると雪が残っている。三角点到着。小休止。下りは国分町への道をとる。導標はないが、一本道なので迷わずに行けた。こちらも仲々風情のある道で通ってよかったです。

出発点 9.45 … 弁 11.05 … △ 11.10 … 国府町 11.50 … 亀岡駅 12.35

2月24日 晴 大文字山

どうしてもあの石仏の在所を確かめたい一念で今日も山へ行った。いつもの様に弘法大師堂で献灯とお茶を上げて池の谷地藏さんへ詣でる。寒さは一寸一服ということでヤッケもいらぬ程である。三角点附近も今日は割合に綺麗に片付いて居る。何時もこんなであつたら良いと思った。お語りしてから元の道を引き返し、十字路から山科方面への道を行くと林の中で休息中の2人のパーティーに出会った。大文字山へよく来られるというので自分の探している地藏さんの事を聞くと「あの忘れられた石仏ですね。あなたも御存知でしたか。この先の高滝きの道を下った所ですよ。」矢張り今日来て良かった。遂に再会する事が出来た。お線香とろうそくを上げて、般若心経を唱える。大休止して、帰りは若王寺山へ出るが、とてもよい道である。仲々趣きのある風情であり、改めて山の良さを感じた。

山 岳 部 総 会 報 告

53.3.10 局厚生会館 4階

出席者 名誉部員 近藤薫氏 森下村重氏 中村維源氏 山村敏郎氏 王生そと氏 牧定夫氏
畑 照氏

本 局 宮後、岡田、大槻、武田、渡辺、楠、小西、井上、柳田、三橋、木下

烏 丸 石田 九 条 鷺見、広瀬

錦 林 (欠席) 西賀茂 (欠席)

八 条 (") 梅 津 吉田

五 条 大倉 北 野 (欠席)

高 野 (欠席) 醍 醐 守山

三 哲 (") 横大路 (欠席)

上京区役所 道端

以上 25名

- 議 題 1. 開会の辞 宮後部長の挨拶
2. 52年度山岳活動表彰について

広瀬氏より調査していただき、重複しないように検討した結果下記の方々が表彰された。なお例会山行延日数72日。例会参加延人員388人でした。

表 彰 者	例会担当	1位	大槻雅弘	2位	大西純一
	" 参加	1位	三橋 勉	2位	武田喜久郎
	集會出席	1位	吉田 武	2位	坂井久光
	投 稿	1位	畑 照人	2位	宮後正樹

3. 山岳部規約改正について

京 交 山 岳 部 規 約 改 正

53.3.10

条 項	現 行	改 正 案
第4条 (支部)	連絡その他山岳活動の便宜のため次の地区に支部を設ける。 本局、 <u>壬生第一</u> 、 <u>壬生第二</u> 、 <u>烏丸</u> 、 <u>九条第一</u> 、 <u>九条第二</u> 、 <u>錦林</u> 、 <u>上堀川</u> 、 <u>八条</u> 、 <u>梅津</u> 、 <u>五条</u> 、 <u>北野</u> 、 <u>高野</u> 、 <u>醍醐</u>	同 左 本局、 <u>烏丸</u> 、 <u>西賀茂</u> 、 <u>八条</u> 、 <u>梅津</u> 、 <u>五条</u> 、 <u>北野</u> 、 <u>高野</u> 、 <u>醍醐</u> 、 <u>三哲</u> 、 <u>横大路</u> 、 <u>九条</u> 、 <u>錦林</u>
第10条 (役員)	山岳部に次の役員を置く。 部長1名、 委員若干名 <u>リーダー団 若干名</u>	同 左 <u>企画運営リーダー団(以下リーダー団という)</u> 若干名

<p>第13条 (リーダー団) リーダー団は部長が推せんした者をもって</p>	<p>構成し、執行機関として山岳活動の推進母体となり、その任務にあたる。</p>	<p>リーダー団は部長が推せんした者をもって構成し、執行機関として企画運営など山岳活動の推進母体となり、その任務にあたる。</p>
<p>第16条 (委員会兼部員集会)</p>	<p>委員会兼部員集会は、委員及び部員をもって構成し、毎月22日に支部輪番制により開催して山岳部の運営に当るものとする。</p>	<p>委員会兼部員集会は、委員及び部員をもって構成し、毎月上旬に支部輪番制により開催して山岳部の運営に当るものとする。</p>

4. 53年度役員および支部委員選出について

昭和53年度役員および支部委員

	支部名	支部役員氏名	会計
部長	本局	津田 実、渡辺朋子、柳田 昇	木下嘉造
会計	烏丸	石田和男、塩野昭三郎	北林修一
備品	九条	田中忠久、広瀬烈、沢井佳三	田中忠久
	錦林	高窪暁夫、松岡伊太郎	高窪暁夫
部報	西賀茂	渡辺智生	渡辺智生
編集	八条	井上 豊	井上 豊
配送	梅津	吉田 武、横田義一	吉田 武
	五条	田中繁行、大倉寛治郎	田中繁行
渉外 (岳連関係)	北野	坂田利春	坂田利春
(代表)	高野	山畑敏和	山畑敏和
(理事)	醍醐	北川 昇、岡本 勇	北川 昇
(評議員)	三哲	村野忠雄	村野忠雄
	横大路	大西純一、岡本義弘	大西純一

企画運営リーダー団 (13名)

宮俊正樹、坂井久光、武田喜久郎、大槻雅弘、三橋勉、岡田茂久 (以上本局)
 田中忠久、広瀬 烈、鷲見敏一、石田幸次 (以上九条) 徳野 治、吉田 武 (以上梅津)
 岡本義弘 (横大路)

企画運営リーダー会

4月26日 (水) 坂井宅

5. 年間スケジュール

		53年度 山行計画	集合当番支部名
4月	↑ 京都府下三十山登山 交山岳部創設三十周年記念 ↓	○ 残雪の山(笹ヶ峰)	錦 林
5月		○ 山岳ドライブ(南紀の山)	西賀茂
6月		○ 山菜教室(芦生演習林)	八 条
7月		○ 夏山合宿→台高の谷	梅 津
8月		○ 厚生会登山大会(妙高山予定)	五 条
9月		○ お月見登山(長老ヶ岳)	北 野
10月			高 野
11月			醍 醐
12月		○ 納山祭	三 哲
1月		○ 冬山合宿→西瀬高岳	横大路
2月		○ ファミリースキー、スキーツアー	本 局
3月		○ 総会	烏 丸

6. 52年度会計報告及び53年度予算

—別紙—

なお本年度と来年度は30周年記念行事助成金として部費の他に¥1,000.-の臨徴を取ることと決定した。

7. その他(30周年記念行事の具体化)

岡田氏より30周年の記念行事として出来るだけ可能性のある範囲で実行できるものを説明していただいた。

※ 京都府下30山記念登山(既に今年1月から実施している)

※ 記念品の製作 (部員全員に記念になるものを配布する)

※ 記念登山 候補地 ○北海道 利尻島 利尻岳 54年6月予定

○九州 屋久島 宮の浦岳 54年5月予定

※ 記念集会 54年7月

議事終了の後アトラクションとして、16%映画を3本上映して閉会した。

ご結婚おめでとう

石 田 幸 次 1月24日

岡 本 義 弘 2月11日

昭和52年度山岳部会計決算報告書

53.3.9現在

収 入			支 出		
摘 要	金額		摘 要	金額	
部 費	116,000		物 品 費	8,420	
本局 40,000 北野 5,000			行 事 費	4,550	
烏丸 6,000 高野 2,000			集 会 費 4,550		
九条 13,000 醍醐 4,000			遭 難 対 策 費	22,000	
西賀茂 3,000 三哲 4,000			事 務 費	216,830	
八条 3,000 槇大路 11,000			部費発行費 163,200		
梅津 8,000 錦林 2,000			通 信 費 19,000		
五条 9,000 市役所 6,000			岳 連 会 費 19,000		
助 成 金	80,000		雑 費 15,630		
寄 附 金	9,820		欠 損 金	5,187	
一般寄附金 2,000					
寄 附 金 7,820					
雑 収 入	40,065				
広 告 料 27,000					
雑 収 入 13,065					
前年度繰越金	728				
計	246,613		計	246,613	

遺対資金横立	前年度	593,891	合計	653,128
	部費より	19,000		(厚生会定期 550,000)
	厚生会助成金より	3,000		(三和銀行 103,128)
	預金利息	37,237		

昭和53年度 予算案

収 入			支 払		
項 目	内 訳	金 額	項 目	内 訳	金 額
部 費	110名×1000円	110,000	部報発行費	15000×12ヶ月	180,000
臨時会費	"	110,000	遺対横立	110,000× $\frac{1}{4}$ +3000	21,000
厚生会助成金		80,000	集 会 費	500×13回	6,500
一般寄附金	部報購読者	4,000	助 成 金	各種大会等	20,000
広 告 料		45,000	岳 連 会 費	例年および臨時	19,000
雑 収 入	映画会、テント使用料等	5,000	備 品		15,000
			通 信 費	2000×12ヶ月	24,000
			総 会 費	会場費等	5,000
			30周年記念		55,000
			雑 費		3,313
			欠 損 金	前年度繰越	5,187
計		354,000	計		354,000

新山、小山、新山、志、求大。

例 会 報 告

例会No	目的地	月 日	天候	担当者	参加者	記 事
1163	氷ノ山	2月10日 ～12日		本局 武田喜久郎		3月に延期
1164	向山 △695m	2月19日	晴 雪	本局 坂井 久光		雪の中、ひとり三角点を踏んできた。 次号報告
1165	ファミリー スキー花背	2月26日	晴	本局 大槻 雅弘	宮後 正樹 武田喜久郎 と家族2名 渡辺智生と 家族3名 三橋勉と家 族2名 柳田 真	例年、同じ時期に同じ行事をするということはいろんな事が比較出来る。暖冬で心配した雪もすべれる様になり昨年の雪より多かった。雪の中でワインを飲みすぎ寝る者。一回でも多くリフトに乗ろうとする者。とにかく楽しい一日でした。
1166	稜敷ヶ岳	3月 5日	晴	本局 三橋 勉	津田 実 武田喜久郎	京都府下30・4記念登山候補地の1つにあげられている山であるが、雪のある間に先行しておこうと思い決行した。頂上で三角点を掘り出すのに苦勞した。 別稿報告
1167	大江山	3月24日 (変更)	晴	九条 広瀬 烈	田中 忠久 上島 和彦 三橋 勉	担当者の都合悪く山行日を変更して出発した。 第1回由良ヶ岳、第2回三岳山とこの第3回大江山はオール快晴に恵まれ幸運な楽しい山行が出来ました。 次号報告

京岳連第7回理事会報告

3月15日 於鴨沂高校

- 報告 1. 技術研究登山 2/10～12 於富士山
海外遠征隊員と熟練者をA班、中級B班、初心者をC班とし、A班は17名登頂、
B・C班新6合目迄登山、 総参加人員 75名
2. 指導員検定試験 3/4. 5 於伊吹山
1次2名、2次1名、合格者 ホルン 安田
岩登・氷雪・学科、積雪氷雪技術及指導法
- 議題 1. 登山教室 4/15.16 於比良堂満岳
◎ と き 昭和53年4月15日(土)～16日(日)
◎ と ころ 比良・堂満岳
◎ 講習内容 1. 登山の知識 登山実技教本(日本山岳協会編)による
2. 登山の実技 イン谷口～神爾谷～北比良峠～金嶽峠～
堂満岳～ノタのホリ～イン谷口
◎ 集 合 1. 15日 16.00～ イン谷口
2. 16日 9.30 までイン谷口
◎ 費 用 前日班 1,500円 当日班 1,000円
◎ 申込切 4月1日
◎ 申込先 京都府山岳連盟事務局 京都市伏見区深草中ノ島町39
ミユキ商事気行
TEL 641-9291
2. 遭難者救助訓練 6/3～4 於明王谷 F1～F3
各会参加要請
3. 30周年記念事業の件
4. 総会準備 6/25 規約一部改正
5. 自然保護委員会報告 清掃事業の終止
6. 第19回全日登山体育大会 5/25～28 蔵王連峰



まかせて下さい……ネ

山とスキー

のことならー

☆在庫豊富にとり揃えています

☆山の道具は“セヒ”御相談下さい

山とスキー専門店

ビッグホリイケ

河原町店 上・河原町通丸太町東入
烏丸店 中・烏丸丸太町南下ル東側



この用具の事なら「ユニシ」が一番です!

御来店ありがとうございます

山とスキー レジャースポーツショップ
そして
海の



中・二条通河原町西 TEL231-1208

帆布・濾布
テント・シート
雨合羽

木村工業有限会社

京都市中京区ミブ車庫前
TEL 801-5331 (代)

名古屋営業所
名古屋市西区児玉町7-30
TEL 521-7541代~4

テニス用品
スキー用品
山用品

交通局の皆さん
とりあえず 京菱へ
満足のいくようにします

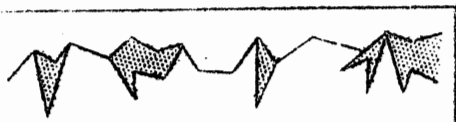
京菱運動具店

下・大宮松原上ル
TEL 801-1331


昭和53年4月1日

京都市中京区壬生坊城町48

京都市交通局 内 京交山岳部



真の専門店として
好日山荘は前進しております
山とスキー用具の
ことなら御まかせ下さい
確信ある用具を
確信ある価格で・・・
好日山荘
河原町六角下ル東入
TEL 241-1731




PRO SHOP
山とスキーチヨル
輸入品とオリジナルの店
AM 12.00 ~ PM 9.00 三条御幸町下
定休日 月曜日 (221) 6186

京都最高のアクアラング用品専門店

- ウェットスーツ製造直売
- 潜水器具特別割引販売
- 現役プロダイバーと全日本潜水連盟公認指導員による
安全確実な潜水指導 (毎週木曜 夜7時ヨリ)

ダイビングプロショップ エリート	スキューバプロ (米)	京都総代理店
	スキューバアポロ	京都総発売元
	AMF ポイト (米)	京都総代理店
	テクニサブ (伊)	京都総代理店

603 京都市北区堀川通北大路上ル東側 TEL 075 (492) 8450

お馴染みのスポーツ店

一般スポーツ用品・用具
家庭用体操器具
購買証でご利用下さい

KK 西沢スポーツ
中、釜座御池下ル
TEL 221-5739



山とスキーの店
京都 **あるむ**

京都市中京区新町三条上ル
☎075-255-0288